京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐ可らず

明治四十二年 紀元二千五百六十九年
本紙定價 ▲一枚金二錢▲一ヶ月前金卅五錢▲三ヶ月前金壹圓▲六ヶ月前金貳圓▲郵稅一ヶ月十三錢
大祭日及び日曜日の翌日は休刊（日刊）
廣告料金 ▲五號活字十七字詰一行一回金五十錢▲雜報欄特別廣告五號活字十七字詰一行金七十五錢
發行兼編輯人 高木久馬太
印刷人 松久神一郎
京城西署西小門通（電話六八六三）
發行所 京城新報社

甘茶澁茶

▲曙光を認む

世は方に現實の時代となり人は又た心を形而上に注がざるに至れる今日、學生の思想の稍々向上し來つて堅實なる學風の潮流し來たれるのを見て余輩は少なからぬ快感を覺ゆるのである、第一『成功の秘訣』『金儲けの徑捷』底の亞米利加流が廢つて眞摯な研究に移つたことが購讀の書類に依て明に認め得らるゝのである、商業は云ふに及ばず工業にまれ農業にまれ浮薄な書物が賣れずして眞面目な書物が賣れ出して來た、醫學や政治や經濟乃至法律樣の學問に志すものが從來は盛に夫れ／＼の辭典を便りに淺瀬に早や學びを遂つたのだが今は此の種の辭典が全く賣れ行かずになり醫學生の如きは『辭典の世話に預かるものは唯藪醫のみ』と公言する程にて彼等が如何に眞摯に研究に從事して居るかゞ推し量られる、武士道の盛に歡迎せらるゝ樣になれるも此の風潮に泛び來れるものと云ふも過ちなかるべし、唯今向は下卑人の範圍に盛に卑褻の小說の持て囃さるゝは甚だ以て遺憾の至りである。

▲自慾本位か

內地に於ては韓國問責など騷ぎ比較的物の解るべき筈の者等が韓國大官の責を明にして天下に謝せざるべからずなど唱へ社會の輿論も翕然として之れに集まるが如きは甚だ不心得の至りながら唯其れ丈けのことなるものとすれば這は唯盲從者の眼識なきものとして憫れむに止むべきも其の裏面に於ては不埒な野心家が隱れ居ると聞ては看過すべからずである、何事によらず彌次馬なるものが出でドサクサまぎれに自腹を肥やすことは有り勝ちの事なれども云へ、斯る場合に國家の大事を口にしてまで甘汁を啜らんと目論むとは實以て心得難し、世は終に自慾本位か、

▲輿論呼はり

內に顧みて疚しからずんば千万人と雖ども吾往かんの文字は今の世には終に價値なきものとなり了れるにや、無暗に輿論呼はりをなして世の彌次馬連を語らひ多勢を恃みて理を非に曲げ無理に我を通さんと謀る習はしとはなつた近頃司法部の嚴しく檢擧捕縛するのを見て直に人權を蹂躙すと呼はり檄を四方に飛ばし四方相應じて司法部に迫り若し浸うせざれば刑法案改正を提出し司法官の增俸を妨げて議會に虐め呉れんと脅すもの現はれたりとは世は實に物騷千萬である、理以て事を說き非ならば則ち止み苟も其の理とする所は勢なしと雖ども向は孤り征かんの氣概あるもの終に此の世にはなきか。

雜報

行政機關の不備

韓國現下の行政機關は所謂三級制度にして各部の次に道を有し道の下に郡を配屬せる組織なるが中央各部は吾が統監府の膝下に在りて直接の指導を受け居る爲め比較的其組織完備し人物亦濟々たるが如きも扨て地方道郡に到りては實に意外の現狀にして各道僅かに數名宛の邦人官吏を配置しあるのみ其他郡に到りては近頃漸く試驗的に日本人主事を任用せるに過ぎず斯かる有樣なれば中央政府との連絡は唯だ公文書の發收又は飜譯位にして他の必要なる行政機能を發揮するの途なきは止むを得ざる次第なりとす謂はゞ道郡所屬の邦人官吏は恰かも外國政府に傭聘せらるゝ通辯の如く他動的に蠢動せるに異ならず元來國家の政務は下級機關の發達によりて始めて其目的を達するを得べし然るに現任の實狀は正さに斯の如く中央政府より道郡に調査を命ずるも龍頭蛇尾の觀あるを以て或事件に就きても要領を得る能はず又各道郡に對し行政上必要なる命令を發するも曾て統一する事能はず屢々噴笑せざるを得ざる滑稽を演出せり要するに韓國政務の遲々として擧らざるは此龍頭蛇尾の行政機關に罪を歸せざる可からず而して各道には教育衞生產業の各主事を置く事となり居れるも現に是あるものは僅かに數道に過ぎず特に部衙に在りては更に甚しき現狀なれば將來に於ける韓國行政の實効を庶幾せんと欲せんには先づ地方機關の完備を要すと某參與官は實證を示しつゝ語れり（電報通信）

俳句

●第七次五吟集　すみれ會

◎秋の蝶　むら撰

焦れ氣味や温室のぞく秋の蝶　月哉
草の葉に果敢なき夢や秋の蝶　中屑
風吹くや葉裏にまわる秋の蝶　不美女
風なりに吹れて來るや秋の蝶　淡水
奢る身の行く末知れよ秋の蝶　萩水
道芝の露にいたまし秋のてふ　中屑
氣の毒や花なき原を秋のてふ　玉糸女
零落た名士の風情や秋のてふ　凸坊
秋の蝶風に弄らるあはれさよ　秋花
能く見ば羽に粉のなし秋の蝶　四樂
舞ふ間より變る間久や秋の蝶　胞三
秋の蝶眞綿着せたき風情かな　月哉
夕陽の江をなゝめや秋のてふ　四樂
掛け茶屋の崩れ氣味也秋の蝶　同
行く方は風に任せて秋のてふ　同
藥隱れて何思ふらん秋のてふ　六坊
貫之が石碑の上や秋のてふ　同

◎感章

香を選ぶ意地は有けり秋の蝶　月哉

◎新刊紹介

●碁界新報（二の十二）樂石生の圍碁將碁論、北洲學人の圍碁哲學其他名人の定石分石解等あり碁客の良師友△東京小石川久堅町其社△十八錢

●東京經濟雜誌（一五一五）金融の景況、不景氣の原因、關稅同盟論、南滿洲の經濟事情、殖民地關稅問題、銀行重役の預金買收禁止等必讀の文字△東京々橋彌左衞門町其社△十二錢

鎭西八郎

第二十八席　伯山改　神田松鯉口演

爲義「フィヤ御貴殿の御言葉委細相分かりしなれども子は內裏へ赴き父は新院へ參りて親子兄弟相戰ふは人倫に於て忍びざるところ、又不思議のことには昨夜拙者妙な夢を見候、其夢と云ふは某が家に傳ふる所の大切なる兜及び倅等の兜六つ合せて七つの兜櫃より飛出し、ヒラリ／＼と空中に舞ふかと見るうちバタリと大地へ落つるよと見る間に忽ち大水來つて其兜を何處へか押流し申候、實に不吉極まる夢にて前兆惡しく候へば拙者の御味方致し候事却て喜ばしきことにあらずと存じ候へば此儀御貴殿より宜しく御執奏願上奉つる」と飽迄も辭退した、教長カラ／＼と打笑ひ　教「老巧なる御貴殿にも似合はざることを申さるゝものかな、夢は五臟の勞れとか申す、左樣なことを氣に留めらるゝな、又親子兄弟相敵對するは人倫に於て忍びざるところとの御說、御尤千萬の次第なれども時と場合に依つては已むを得ぬこと、既に新院と內裏とは御兄弟にまします、關白と賴長公とも御兄弟である、兄弟なりとも相爭はるゝことは已むを得ませぬ、況んや大義親を滅すと云ふ古語もござる、大義の上に於ては親子兄弟と雖ども容赦はござるまい、御貴殿も忍び難き所を忍んで強いて新院へ御味方なさることこそ人臣の道と申すものでござる、最早猶豫なさる場合ではござらん、疾く／＼某と同行あつて然るべし」と滔々と述ぶる辯舌に爲義は是非なく　爲「然らば拙者の八男爲朝を差出すことに致すべし、某は年老いて御役には立ち申すまじ、又多くの倅もこれあるも、左程武術にも長ぜず、唯八郎爲朝は幼少より疎發の性質だけに又武術に掛けては他人に退けは取らず、願くは八郎を御用ゐの儀願上奉ります」と自分は飽迄も辭退を申上げた、けれども教長は「イヤ何は兎も角も某は宣旨を承はつて爲義殿の參內を促がしに參ひたのでござる、御貴殿參內あらせられずば某の役目が立ち申さん、是非／＼爲義殿御子息を御連れ即刻參內あつて然るべし、是非に／＼」と言はれて爲義も已む事を得ず、四郎左衞門賴賢、五郎掃部介賴仲、加茂六郎爲宗、七郎爲成、鎭西八郎爲朝、源九郎爲仲、總べて六人の子を卒ゐて白河殿（新院の御所）へと伺候した、新院御感斜めならず、新らたに、爲義に近江國伊庭莊美濃國靑柳莊此二箇所を賜はり上北面に任ぜられ鵜丸と云へる名劍を下し賜はつた清盛の叔父平忠正も新院へ走せ參じ、南都興福寺の僧徒も新院へ御味方致すこととなり、愈々大廣間に於て合戰の評議が始つた、一段高き所に御簾を垂れて崇德上皇は座し給ひ、御簾の近くへ左大臣藤原賴長着座し、二間程退つて爲義忠正を始め公卿の方々居並ぶ、爲義の子等は遙かに階の近くに座を占めたり、當時鎭西八郎の武名は都へも聞へて居りましたから、賴長は八郎を召して戰爭の方略を尋ね給ふ、此日爲朝は獅子の丸を縫ひたる直垂に八龍と云ふ鎧に紛へし白き唐綾を威せる大荒目の鎧着て、三尺五寸の太刀に熊皮の尻鞘入れ五石の弓の長さあまりてつく折れたるに、卅六指たる黑羽の矢を負ひ、兜を郎党に持たせる其風情立派なること譬ふるに物なし、勇は樊噲に勝り智は陳平にも超へ弓勢は養由基も三舍を避くべき有樣、天晴勇々しき大將よ、年こそ若けれ如何なる大軍も此者一人だにあらば恐るゝに足らずと、人々皆賞讃致します、新院も御簾の間より御覽ありて彼れが五年以前に式成則員が矢を取りたる時より身の丈けも一とかさ高くなりて見ゆ、誠に一騎當千の勇士とは斯かる者を云ふならん」と御感深く在はしまし「これ爲朝を呼びて良策もあらば問ふて見よ」との仰せ賴長は畏て「コレ爲義、爲朝を之れへ呼べ」爲「承知仕り候、八郎御召であるぞ、近う參れ」爲朝「ハッ」と答へてツと立上り大床を歩みて御簾の近くへと進みて平伏なす　賴「こりや爲朝、百戰百勝の策あらば申出づべし」と仰せられた、時に、爲朝は「左ればにて候、腹藏なく拙者の考を御聞きに達し奉る凡そ戰は臨機應變のものにて一樣には申上げ兼ぬれども今高松殿（後白河帝の御所）には臣の兄義朝以下二三千の兵はあるべし、然して此の白河殿（崇德上皇御座所）には兵一千に足らず、南都の僧兵とても當にならず候へば、何は兎もあれ勝を一擧に決せざれば味方の不利にて、況して寡を以て衆を討つは夜襲を第一と致し候、某鎭西にありて大戰二十、小戰數十、城を拔くこと數十箇所、其の實驗する所に依れば夜襲こそ尤も宜しかるべし、今夜高松殿を襲ひ、火を三方に放し其一方より攻むれば一擧して勝を制するは必然でござる」と赤誠を面に現はして述べました。

京城新報

タフトの引導

我實業團一行に對し

我が實業團の此たび米國に渡るや、公に私に往く處として驩迎せられざるなく、米人が我が實業團の一行をして能く國情に通曉せしめんと謀ることの切なるが中にも、大統領タフト氏が此の一行を犒はんが爲めに催したるラファヤート、クラブの晩餐會に於て爲せる演說中、特に與へたる警告の如く、懸骨に痛切に、其の國情を知らしめんと謀りたるはあらじ。氏は輙ち曰く「余は諸君に向て一の警告を爲さんとす、我が米人は何事によらず從來人後に落ち居たるも、將來に於ては將に偉大の事業に從はんと企圖す日本人諸君は特に此の點に於て須く緊褌せらるべきを望む」と吁々何ぞ言の甚だ大にして意の太だ深きや、タ氏の此の言を爲す啻に此の一行の爲めにのみ是れ爲したるに非らずして、實に我が帝國に向て發したるなり。言甚だ穩ならざるが如きも、然も意甚だ懇切を極め、互に平和の戰鬪を盛にし人類幸福をして倍々增大せしめんと欲せるのみ、而して其の言の所謂將來に於て企てんとする偉大の事業とは、列國に向て盛に發展を試み、十分に利權を獲得せんとするを意味するものなり[illegible]亞利加ならんも、其の最も心を碎くは實に我が東洋にあるなり[illegible]見よ彼の頃の失言が直に駐淸クレーン公使の召還となりたるにあらずや[illegible]

今日の世は世人が希望するが如く[illegible]に五十年來の[illegible]係の久しく親交の密なる米國の如きは[illegible]淺薄なる希望を抱ける間に、彼は既に[illegible]貿易の如き鑛山の如き、着々として之が[illegible]東洋の事業に染めつゝあるにあらずや[illegible]近くは又た將に東淸鐵道を購ひ、資本を投下して一大發展を試みんとするを見ざるか、タ氏の此の言を爲す意實に此にあるなり、若し我が國民にして尙ほ幾むるなく、蠢々として眼を近きに落し、遠きを慮はかるなくんば、た陸下に於て我國を挫くも近き將來にあるべしと暗示するを見ざるか。言の些か我國を小供視するの嫌に觸はるものあるも余輩は與に我が弱點を捕へて警告することの至て痛切なるを感ぜずんばあらず、今にして覺醒する所なくんば、終に我が大陸政策も盡なしとなり終はらんを是れ患ふ。

東京電報

▲議會開會の順序

第廿六議會は愈來月廿二日を以て召集さる筈なるが當日は貴衆兩院とも部屬を定め部長理事の撰擧を行ひ玆に兩院成立し多分廿四日開院式を行はれ廿五日衆議院は奉答文を議し各常任委員の撰擧をなして散會し廿六日は日曜日休會廿七日開會し多分同日を以て歲末の休暇を爲すべし(十日夜)

▲預金利子の引下

稀有の金融緩漫に遭遇せる銀行業者は資金の需要起らざるに苦しみコールマネーの如き日歩六厘迄引下げ一般貸出日歩は八厘五毛より九厘迄引下げたるも恐怖せる事業界は更に資金の需要生ぜざるより既に銀行の大半は預金の利下をなすの意見を抱き居れば近く實行を見るに至る可しと(同上)

▲天皇陛下還御

大元帥陛下には本日大演習地より午後二時三十分上野に着御あり直に皇居に入らせ給ふ各宮殿下及文武官の奉迎盛なりき(十日)

▲四國九州の地震

昨日四國、九州、瀨戶內海に地震あり[illegible](十日)

▲韓鐵合併發表期

韓國鐵道を鐵道院に合併する件は愈[illegible]發表せられ別に韓國鐵道管理局を設け現大屋長官局長となるべし(同上)

▲帝國海軍擴張

政府は來る四十五年度より海軍第七艦隊を新設すべく臨時財源として新税を課せず他に財源を求むる筈(同上)

▲韓國記者の招待

東京新聞有志者は昨夜韓國新聞記者[illegible]を招待して歡迎會を催したり(同上)

▲キ元帥東京歸着

キッチナー元帥本日大演習地より入京す(同上)

滿洲電報

▲英國と滿洲問題

淸國開發英吉利組合が滿洲に於ける日本の勢力範圍を制限せんと努めつゝあるに[illegible]然るに英殖民大臣クレイン伯は上院に於て言明して曰く日本は淸國內の地理上一定の區域に對し[illegible]の計畫に對して禁止權及評議の不干涉權を有せり而して此區域を制限せんとする行動に對しては英政府は之を拒絕せり英政府は之等の問題を以て單に日淸兩國に關するものなりと思惟すと(十日着)

▲日本の軍制調査

ブルガリヤ首都ソフヰヤ來電によれば日本高級將校二名の來着の目的は軍制調査の上日本軍[illegible]建議するに在り[illegible]國に適用し得れば[illegible]るの意ありと(同上)

▲土政府と航行權

土耳古政府は英國のユーフラテス、タイグリス兩河航行獨占を許可することを躊躇しつゝあり(同上)

雜報

西沿岸邦人漁業

本年に於ける日本漁船の龍岩浦附近に出漁せる總數は百七十三隻に達し內百二十七隻は水産組合龍岩浦支部に加入し鴨綠江口より大和島附近に到る沿海に殘四十六隻は鎭南浦其他より出漁せるものにして淸川江口に從事したるもの六隻を除くの外總て黃海道沿岸椒島附近より長山串に至る近海に出漁せるものなり而して龍岩浦に於ける日本漁船を縣別すれば熊本最も多く廣島長崎山口大分之に亞ぎ其他は香川佐賀愛媛福岡[illegible]等の諸縣なり漁獲物は紅魚石魚、[illegible]の雜魚にして使用漁具は鮟鱇網延繩手釣流網一本釣打瀨網等にして最盛漁期は陽曆四月により[illegible]獲高は一隻八百圓に[illegible]に於けるは熊本最も[illegible]長崎之に亞ぎ其他は[illegible]なり漁獲物は鯛石、[illegible]漁魚等にして漁具は[illegible]網地曳網等を用ゐ[illegible]月にて漁獲高は漁[illegible]るも概ね各船平均[illegible]延網は八百圓鮟鱇網[illegible]十圓位なりと

民長の後任問題

京城居留民長の後任に就ては既報の如く[illegible]歸向を問ふ爲め和[illegible]長をして所望を具陳[illegible]出期限は一昨日な[illegible]するものなきを以[illegible]更に督促を發した[illegible]々銘々の意見を開[illegible]結果を要せざるか[illegible]歩調を示めすに如[illegible]を京城商業會議所[illegible]開く由なり就て各議員の意向を探るに熊谷民長在職中は[illegible]

▲ラッド博士の講演

[illegible]及び商業上の競爭より起れる惡感情は今尙は强盛なるが如し又曰く「余が日本の親友に對し反覆固執して告げんと欲する所の趣旨は今や日本人は平和的事業の發展に向つて戰爭に於けると同樣困難なる競爭を爲さんがために凡ての精力を注ぎつゝあれば縱令にも道德上及び宗敎上の諸勢力を發達し以て彼等が職場に於て實現したる公德私德の標準を低下せしめんとする諸種の傾向に抵抗し得んと即ち是なり、余は武士道の原理を維持し擴充し又向上せしめて之を全國民に施さんこと今後益々困難ならんことを恐るとてなり」云々

韓國造林の急務

(道家農商工部技師談)

韓國の山林は現今荒廢に傾き國土保安上に影響を及ぼせるのみならず木材缺乏して之が供給を外國に仰げり四十一年度木材の輸入額は二百萬圓に達し三十六年に比し約十倍に當れり是れ近來韓國經營に供ひ益々木材の需要を增進したるが爲めにして材價の高き事甚しきが其他農業水產業鑛業等其發達を阻碍せること尠からず林業の興廢は韓國經營の維持上一大關係を有することは言を俟ざる所にして即ち造林の緊要なること敢て他の產業改良の必要なるに讓らざるべきを信ず現今の狀態に於て急速に之が成功を望[illegible]を以て種々の方法を[illegible]之が指導獎勵を爲さ[illegible]府に於ては現、農商[illegible]き京城水原大邱木浦[illegible]に林業事務所を設け[illegible]の調査に從事せしめ[illegible]附屬して官植苗を人[illegible]を養成せしめ居れり[illegible]於ては植林を爲した[illegible]故に其成功に於き疑[illegible]らず故に將來大に造[illegible]事業の完成を告げし[illegible]好良なる模範を示し[illegible]致するを必要とす[illegible]城北漢山を主とし大[illegible]所に模範造林地を設[illegible]苗木を植栽せしが幸ひ[illegible]る善良にして韓國に[illegible]困難ならざるを確む[illegible]同時に大に一般造林[illegible]るべきを認めたり之[illegible]林は現時荒廢を呈す[illegible]果にして若し其の經[illegible]しきを得ば容易に成[illegible]く林業の經營は頗る[illegible]ならず林業の興廢は[illegible]上に至大の關係あるを以て速かに本邦移住者の企業を期待すると同時に內地に於る有志家に對して又汎く韓國の林業を紹介し其注意を喚起せんことを望む

韓國の國民敎育

過般來韓せし眞野實業學務局長は歸朝後韓國の敎育に關し左の談話を爲せり

▲小學敎育發達 近時韓國に於ける小學校敎育の發達は實に驚くべき程にして數年前現文部省視學官幣原氏が同國の學事顧問たりし時にて所謂形式的儒敎主義を墮守して上流社會の兒女の如きは簾を隔てゝ敎授を受くるが如き有樣なりしに現今に於ては斯の如き弊風一掃され小學校は到る處に建設せられ兒童亦嬉々として登校するを見るのみならず余等の訪問に際しても笑つて迎ふる等頗る可憐のものありたり

▲敎科書の一定 敎科書は我國にて編纂したる者にして我國從來の實驗を基礎とし之に韓國の民情風俗習慣等を參照したるものなれば比較的好良なる敎科書と云ふを憚らず

▲良敎師の缺乏 斯の如くにして韓國の國民敎育は駸々として進歩しつゝあるも刻下の急務としては良敎師の供給なりとす勿論本邦敎師にして適當の人物乏しきに非ざるも如何せん韓語の素養乏しく爲に往々彼我の意志十分に疏通せざるの場合あるは遺憾なり世間往々にして韓語を學ぶの必要なく我國語を彼等に學ばしむべしとの說を爲す人も無きに非ざるも斯は理想としては最も望ましき事なれども目下の對韓敎育策として決して穩當なる說と云ふ可からず

▲師範學校設立 されば同國學部に於ても韓人敎師養成の目的を以て既に師範學校を設立し良敎師の養成に務めつゝあれば數年の後にては殆ど我國の小學校と略同一の成績を見るに至らんか要之に今回の視察によれば韓國敎育の前途は決して悲觀すべきに非らずと思考す云々

●淸國密漁船の近況

淸國密漁船の韓海出沒狀況は爾來監視の嚴重取締の爲め近來頗に減退し客月十二日より二十六日迄に於ける拿捕總數は僅かに十二隻にして發見地は宣川灣一隻獅子島附近にて一隻身彌島と熊島との中間に於て八隻砂五口にて二隻ありしのみ而して彼等は取締官憲の追捕に遭ふや孰れも從順に恐縮して直ちに退去する旨誓言するを以て嚴重に將來を戒告して放還せる由尙は漁獲物の如きも殆んど皆無にして斯かる現狀なれば其根絕は方さに近かる可しと

●貨幣寫眞帖の調製

此程度支部に於て調製されたる韓國の新古貨幣の寫眞帖は頗る美麗なるものにして就中珍とすべきは往昔軍用の爲め鑄造せる五兩九錢と刻せる徑三寸餘の圓形銀盤なるが其他葉錢及近來諸種の銀貨尙は銀行券をも包有せり

●古在農學博士出發

滿韓視察の途次來京せられたる帝國大學敎授古在農學博士は昨日高德里釀造試驗場龍山大韓婦人蠶業講習所を視察せられしが本日は纛島の園藝模範場を視察の上明十二日平壤に向け出發の筈

●軍司令官の東上期

大久保軍司令官は前日來微恙引籠中なりしが既に快癒したるを以て十日より出勤執務せり尙上京の期日は未だ確定せざるも多分來る十五日頃ならんと

●神谷本木兩書記官

昨日午后四時より澤田地方局長は赴任の途に就かんとする神谷本木兩書記官を招待し內部關係課長地方局高等官も出席地方局長より一場の談話をなす由

●排日新聞紙の押收

浦鹽發行の排日新聞大東共報第七十九號第八十號第八十一號は治安に妨害するものと認め內部大臣より發賣頒布を禁止し且つ同紙全部を押收せられたり

●來年度地方費豫算

來年度に於ける地方費豫算は既に度支部に內部より提出せるが京畿全羅南北慶尙南北道は約十萬圓忠淸南北道黃海道は七八萬圓其他は三四萬圓なりと

●隆熙四年度の豫算

隆熙三年度の豫算は昨紙所報の通りにて認可若くは認可中なるが同四年度の豫算も目下各道より提出中なりと云ふ

●熊谷前民長の招宴

前京城居留民團長熊谷賴太郞氏は來る十三日午後六時より當地重なる有志者を花月樓に招待して饗宴を張る由なり

●前法務院長送別會

今回日本大審院判事に轉任せる香坂前法務院長の送別會は今十二日午後六時より花月に於て開催せらるゝ筈なり

●兵士の動物園觀覽

來る十四日第十三聯隊兵士內地へ歸還する事となりたるより當日昌德宮內物園觀覽を願出で許可を受けたりと

●船舶檢疫施行廢止

虎疫流行地と認め檢疫施行中なりし營口牛莊大連芝罘安東縣方面經由の船舶に對しては一昨日より檢疫を解除さる

●間島憲兵の引揚濟

間島出張所より引揚げたる憲兵九十八名は本日午後八時十分南大門驛に到着

●淸國領事統監訪問

淸國總領事馬廷亮氏は昨十日曾禰統監を統監府に訪問し會談する處ありたり

●警察官の任地出發

永田書記官、安田、陣、是澤三警視は今十一日朝各々新任地へ向け出發したり

龍山の選擧情報

(中立同志會の活動)

龍山民團議員の撰擧は昨日を以て施行せられしが既報革新同志會、龍山有志會の外今朝に至り新たに中立同志會なる者起り候補者は革新派と有志會との兩派より都合八名を選びて盛んに運動を試みたれば其結果意外なる人物が高點を占むるならん尙ほ選擧會場には大久保民長を初め立會人渡邊五郞、鐵道廳者曾根書記、村井甚七の三氏を監督として京城理事廳より長野屬及び龍山署より谷川警部も出張せり投票午後二時締切り直ちに開票に着手せしも本紙締切迄は其結果を聽く能はざりき

▲釜山の最近商況▼

▲金利 昨年の當期は日本の金利二錢四厘なりしが本年は二錢より一錢五錢の間を往來せり

▲米 該同樣十四圓三四十錢の間なりしが本年は十一圓三四十錢尙は玄米は七圓台なるが交通不便の地に於ては五圓以下と云ふ相場にて日韓人共此の如き低落は殆ど昔話の樣なりと評合へり

▲紡績糸 は昨十一月一日は△喜印十手百〇五圓なりしが本年は百二十圓にして廿五六圓の高價なり金巾は五圓六十五錢にして異變なし

▲日本小巾木綿 紡績糸の昨年に比し本年は十四五圓格高なるに反し四五錢の安價といふ極て奇怪なる現象を呈せり紡績糸の賣行鈍きは當然の事なり

▲砂糖 は意外に變動激しく製造會社供給の饒かならず品薄の爲め何れも前途を見込み强氣從ふて先物賣買なし

▲メリケン粉 一時品切れの爲め京城釜山共一時は三圓五十錢に迄突飛取引したりしも其後約定品輸入の爲め一時下向きの姿ありしも長らく渇したり同市場は間もなく品切の姿となり又々玆一週間來は在品缺乏を來し再び破格の高値を呼起すに至れり

▲石油 需要期には云ひながら各方面の賣行は頗る活潑にして殊に米英兩油の賣競は漸く價格の下向を促し旁一層需要の度を昂め益好況に向ひつゝありしが一般沈衰の商界に於て今や石油獨舞臺の觀あり

●金谷三男氏出發 天安憲兵分隊付三等軍醫の氏は昨十日任務を了ね歸任

●仁川管區長出發 憲兵中尉仁木友彥氏は昨日管區長會議を了ね退京せり

●安武中尉の歸任 來京中なりし江陵管區長安武基熊氏は十日出發したり

●楊履均氏の出發 淸國鐵道局次官の同氏は昨十日安東縣へ向て出發せり

●湯淺警視の入京 平安北道警察署部長湯淺秀富氏昨日入京巴城館へ投宿

●永田支配人來着 大阪北濱銀行支配人永田錫太郞氏十日入京天眞樓投宿

●本田博士の歸任 水原勸業模範場長本田幸介氏は昨日水原へ歸任したり

▲治外法權▼

熊谷京城民長の後任に就ては三浦理事官より各議員に適任と認むる人物を各自思ひ／＼に申出よとのことなりしも今に一人として申出でし者がないそうだ、苟くも居留民の代表者を撰ぶのであるから愼重なる取調べを要する事は勿論であるが官廳の趣旨は居留民多數の向ふ所の人物を官撰する樣子だから此際些々たる感情を排除し宜敷く各議員討議の上適任者を撰んで貰ひたい之れ等が居留民を代表する議員の尤も重き任務の一つであらふ▲新聞任命は當にならぬとは往々耳にする處だが本紙は此間鍋島外務部長の後任は當然小松書記官が襲ふであらふと書いて置たら果して其通り任命を見た新聞任命も時々的たるから妙じやて尙は小松氏は近々勅任官に昇進するであらふ是れも新聞任命だが當るか當らぬかこゝ一寸の間がれ樂しみす▲龍山民團議員の選擧は愈よ本日であつたが本項締初迄は其結果を知り得ざりしも今朝に至り新たに中立同志會なる者が起つて巧に運動を爲た結果意外なる人物が高點を占め確かなりと噂を括くつて居た人々が落選かも知れぬ

●咸昌の農產品評會

去る一日より慶尙北道咸昌郡に於て農[illegible]產品評會を開催せしが[illegible]十三點に達し殺額最も多數にて[illegible]本種を輸入し專ら改良を講せし故良品多く[illegible]なり參考品として菓實類白餘種あり七日の褒賞授與式は各郡守、日人官吏[illegible]せし者に對し夫々物品賞賜の御沙汰に及ばれしが韓人へは嚴に御下賜[illegible]

吉凶鏡

十一月十二日[illegible]子のろく△一白[illegible]冶金鑛山の業に[illegible]際賀賀等注意すべし△三碧 轉易更改の事図尙旅行見合すべし盜[illegible]貸借保證受印を戒しむ△六白 新事[illegible]るなかれ△八白 盜難紛失防ぐべし近親親族の事に心配あり轉居轉業は[illegible]

遺品評會を開催せるに[illegible]審査監督として技手山崎森三郎氏出張せられしが出品數は總計四千二百五[illegible]を施せし[illegible]比較的[illegible]入るが此擧を賛し陸部龍宮、明慶より七十餘點の出品

●韓皇帝の御下賜品 今春韓帝御巡幸の際扈從又は出張勤務[illegible]

●芋川典獄の退京 公州監獄典獄芋川正義氏は十日任地へ向け出發したり

[illegible]子のろく△一白[illegible]治金鑛山の業には吉其外平凡盜難を防ぐべし△二黒●權謀術數に罹り易き日なり取引交[illegible]多し交際上業務上に留意すべし△五黄●他人より損害迷惑を受くるあり[illegible]△七赤[illegible]に傾くの日なり又新婚者は禮節を[illegible]すなかれ落馬落車若くは負傷を受く[illegible]位を侵す勿れ尚證券印章の事留意すべし

稲井茂兵衛優（十三）

▲當時壽座に出演す

昇妻座の後一座は田村成義の仕打で新富座に這入り「相馬事件」を脚色んだ看板を揚げると警視廳から差止めを喰ひ五六回を訂正して蓋を開け次で演伎座を打揚げ神戸大黒座に乗込み、夫れから京都、名古屋と興行して大阪角座へ招聘れた一座梅田に着いて宿屋へゆくと「壯士役者は眞平だ」と泊めて呉れない、何故かと聞くと「岩尾慶三郎が散々暴れ廻つたので懲々した」と鼻先であしらい鹽を振り蒔かんばかりの挨拶で詮方なくその夜は最寄の寺院を頼んで泊めて貰つた、翌朝になると執達吏が遣つて來て罪もない吾々の所持品に封印を貼つた理由を糺すと寺院が財産差押へを喰つたのだとの事、一同呆れて顔見合せ因果な處に泊つたものだ、昨夜といひ今朝といひ乘込み早々縁起でもないと呟いて居ると果せる哉、當興行は大不景氣につゞいて到頭道具方の失策から失火して小屋は丸燒となつたうこで吾々は草履穿きで一々前茶屋へ謝罪に廻つたが反て同情を曳きそれが爲め人氣が盛り返した、除に申す「禍を轉じて福と爲す」とは眞にこの事でしやう。

翌々月京都南座に出勤する事となつた時恰も日清戰爭の眞最中で市民一般寄ると觸ると戰爭咄しで持ち切つて居たので直にそれを脚色んで上場し幕間に各々陣羽織を着て日の丸の鐵扇を持ち「神燈芽出度き礎は、万國無比の大日本義勇で固めた武夫の、大和魂を見せんとて、浪風隔つから國の」云々の自作の歌を唄つて踊つた、これが人氣に投じて日々大入りの大繁昌でした、勢に乘じて辨天座のコケラ落しに臨み更に浪花座に大一座を組織した、けれ共僅一興行で瓦解の非運に接し四分五裂し始らくは田舍廻りをやつたが至る處大失敗、その内新富座との交渉纏まり金泉と一時役者を罷めて鮨屋の亭主となつて居た節間を勸誘めて廿九年の七月同座に歸り十四日初日で「輪地獄」と「嗚呼少尉」を八月十九日横濱の蔦座「賊紳士」と「嗚呼少尉」を十月一日再び新富座に「此美人」と「金神利生記」を演じた、この新富座開演中に高田、秋月、小織、喜多村、深澤、木下、永瀬、木村猛等の成美團が僕と反對の大隅文次郎の肝煎で大阪角座に賑々敷開演すると聞いたので打棄て置かれず、直に大阪に乘込みツイ隣りの浪花座に陣取て籠つて向ふを張つた（つゞく）

露佛清韓の關係 阿片窟の大椿事

▲預金證其他の紛失
▲ロスキー等の落膽

西署西小門通り居住清國人張茂林の同胞張某が清韓人等を誘ひ入れて盛んに**阿片**の密賣を成せるのみか同家の一室を劃りて**吸飲**所に宛て居る旨曩日來噂せるを聞き込みたる清國領事館に於ては密偵を放つて探索の歩を進めつゝありし所一昨夜十一時頃密偵の一人より現在七八名の韓人を誘ひ入れて吸烟せしめつゝありとの報告ありたるより同館に於ては**三等書記**官**馬連和**氏に清國巡査四人を附し現場に急行せしめたるが馬氏は韓國人も居る事なればとて途次大漢門派出所より韓巡査一人の應援を得て同勢六人**張**茂林方に**踏込**みたるに密偵の報告に違はず車坐を作りて吸烟最中なりしかば有無を云はせず引つ立てんとしたるに韓人等は周章狼狽しながらも清國巡査の彼れ等に手を觸れざるを得たりとなし暴威を揮ふて六七名の者は逍遙し僅かに其一人を捉へ得たるのみなりし元來張茂林と云へるは所謂**宿屋**稼業なれば此の**只**ならぬ**物音**に別室に同宿し居りし**露**國人サガレトシユリー**佛**人アフハナースの兩人も**火事**もやあると取る物も取り敢へず**戸外へ飛び出**したるに**前記**の始末と判明したるより**安心**の胸撫で下して**自室**に立ち歸り**見**たるに確かに卓上に載せ置きし露人サガレーシユリーの貴重品包…十八銀行預金證九百圓附込み一、芝罘郵便局爲替四百圓一、五十圓一、長春爲替五十圓一、五圓の手形一、寶石入指輪二、現金五百六十圓**合計二千餘圓**入りの物見當らざるより一自分の思ひ違ひにて置き場所が違ふたるにはあらずやと室内殘る隈なく捜索したるに無いものは矢張り無いと極つたのみか**佛**人アフハナース**所有**の純金指輪二個、金張烟草入一、金時計一、金鎖一連の**紛失**を發見したるに仰向反る計りに仰天し必定**清國巡査**の一行が自分等が戸外へ飛び出せし跡にて清國人の部屋と取り違へ證據の一端とも思ひ違へて**持ち去**りたるに相違なしと速斷し清國**領事館**へ向け**嚴重**に**談判中**なりと云ふ然るにても如何に狼狽したりとて清國官憲が阿片吸烟の證據に金時計や銀行預金證を持ち去る可き理由もあるまじ要するに逃逸韓人が得意の火事泥的手品を使ひ持ち逃げしたるものなるべしとも云ふ人あれど如何にや尚委細は後報する所あるべし

▲觀世流の素謠大會

當地觀世流謠曲嗜好家は來十一月十四日の日曜日を卜し南山和樂園にて素謠會を催す由にて其番組左の如し尚會場は京城全市を一眸に收め園内に菊花秋草咲亂れ無二の景勝を占むるとて當日は參聽者も多かるべく極て盛會ならん開會は午前九時より

發磐（三田正文）三輪（中川五星、栗壽山）八島（川上百峯、山口岳南、ツレ木村龍山）玉葛（鈴木禾山、佐々木一如）獨吟（今岡美嶽、豊田芳水、大槻西浦、渡邊中堂、吉松堅峯、吉田水聲、田尻荷雪、田本忘蹄、仲谷鴨水、村上龍眠、村上夫人、鵜殿守、上杉松佳、栗山汀月、深尾路泉、寺田菅聲、寺田香浦、寺田清子）弱法師（三田正文、安住恐山）紅葉狩（岡枝引嶺、伊藤典山、ツレ永井松翠同陶山竹爾トモ秋場白浦）仕舞▲致盛木村龍山▲網の段安住恐山▲笠之段三田正文▲玉の段千勝萬三次▲天鼓中川五星▲小袖曾我武笠二令孃▲小鍛冶中川五星）賀茂（井上芳磐、椎木はなれむツレ三好省）鉢木（千勝萬三次、鈴木禾山ツレ稲垣均聲）草紙洗小町（柴田木南竹内梁陰ツレ貫之野村華山王野々村宗謙）獨吟（藤富國香、安東貞泉、赤松成嶺、阿部秀蜂、佐治五鈴、齊藤蒼浦、齊藤部留子、笹部仙風、坂井曉嶺、佐々木夫人、三田艶子、椎木多美子、森安壽、白井良泉、最上洋々、安田貞水）蟬丸（片山金峯木村龍山セミ田中烈峯立衆花田嵩峯、同川田百峯）山姥（安佐恐山菱谷天籟ツレ花田嵩峯）祝言、千勝萬三次

●末恐ろしき惡少年

▲主人の金にて物見遊山

原籍福岡縣朝倉郡秋月町士族原田光雄（十七）と云ふは生來性質僻じけて常に良からぬ行爲のみありしが先月廿一日同縣筑上郡宇之島町の廻漕業上田政市方に雇はれ中宇之島銀行より現金三百七十圓を引出し來れと主人の命令を受けたるを何寄りの好機として未だ十七歳の青二才に似も遣らず該金全部を拐帶し尻に帆掛けて下關に出で名古屋を經て東京に赴き伊藤公國葬の盛式等を見て物見遊山に暫らく浮身を窶したるが聞けば朝鮮とやらは未開の土地にて遣利も少なからずと知りては矢も楯も堪らずさりとて金がぬ旅の空なれば且に京都に遊び夕べに大阪の遊廓堀に芝居見物と洒落廻り本月七日釜山に渡來し同地の鳴戶旅館に投宿しておらう事かあるまい事か同旅館の仲居なるれきと云ふ一寸遊皮の剝けたる女の袖を曳きて一夜の情の露に浴したる腕前は十七の小僧とは思へぬ程にて眞に后世恐るべき子供と云ふべきか越へて九月仁川に流れ來り今しも列車より降りたる樣の只ならぬものあるを見て取りたる仁川署刑事は尾行したる處同人は花屋旅館に投宿して江島榮次と僞名し贅澤三昧を盡すにぞ愈々迂論な奴とやい小僧一寸來いとばかり本署に同行して取調べたるに遂に包み切れず前記の次第を殘らず自白したるより直に檢事局に廻はしたるが茲に特筆すべきは彼れ光雄の注意周到なる事にして名刺印章等總て己が僞名のものを特に持參し居りたるには刑事も舌を捲きて驚嘆したり

●貧少年の出來心

大阪生れ當時京城永樂町一丁目村上浪次郎方滯在平民無職小島辰正（十七）は去る十月十七日午後四時頃南大門通三丁目村上新太郎が南大門通りの寫眞館岩田鼎方二階の撮影室に遺留せし金五圓及び卷煙草若干在中の烟草入れを傍に人なきを幸ひ竊かに窃取して内二圓を費消したるを其筋に探知せられ南部署酒井警部取調中の所同人は前非を悔ひ改悛の情顯著にして且つ微罪なれば將來を厚く説諭して昨日釋放したり

●金を拾て知ぬ顔

仁川宮町一丁目醤油商吉川飛太郎方雇人久住勘二と云ふは一昨日午後四時頃宮町より京城通りに至る道路にて金十三圓及び約束手形三枚在中の折鞄を遺失したる旨其筋に訴出でしかば仁川署員は精密に探したるに花島洞居住の崔永先と云ふが拾得して現金は着服し鞄は水踰洞なる商悲尚と云ふに轉賣せし事實を確かめたれば直に同人を拾得物横領犯として取押へ昨日檢事局に廻はしたり

●油斷出來ぬ韓人

仁川月尾島翠樓長福田驍方の小使同地水踰洞居住の應龍吉（十七）と云ふは一昨日午後四時頃飄然として姿を隱したれば兼々心良からぬ渠れの事とて若しや不都合なる所爲もがなと居室を取調べたるに果せるかな金側時計同鎖金指環等價格百二三十圓の品物紛失し居れるにぞ窃取逃走したるものと見て取り其旨仁川署に屆出でたるが油斷のならぬは韓人なり

●日韓人の水掛論

京城若草町六十番戸居留殘道廳傭人初音政吉郎（二〇）は昨十日某知人の空氣銃を韓人來沈水に貸したるに破損せしとて修理方を談判せしも來は破損せしは事實なるも返却の際修理せりと云ひ政吉郎は修理完全ならずと主張し遂に南部署に同道して出頭し裁可を請ひたるも双方の不注意に胚胎せしことなれば兩人へ説諭の上和解せしめて引取らしめり

●竊盜犯人の處刑

情婦を身請せし金子を竊取して取押へられし仁川居住の船頭佐々木虎吉（三二）に對する公判は一昨日仁川地方裁判所にて開廷の結果竊盜犯に依り懲役二年六月に處刑されしが之れを以て同裁判所開廳以來第一の判決言渡なりと

●新町の健康診斷 去九日新町遊廓檢黴所に於て娼妓の健康診斷を行ひたるに受診妓總數百八十七人にて内病氣休業其他を除き健康者は百六十七人也

●中券の新妓披露 門司市生れ工藤てるよ（十七）は若龍と名乘り中券に顯はれ今晚より召に應ずと

●遊廓だより 昨夜新町遊廓の嫖客は八十九人散財高五百廿七圓六十一錢

淨藝

▲壽座 福井伊東合同劇明日明後兩日の替りは幽芳氏の傑作「己が罪」にして場割及び役割左の如し尚ほ小役櫻戸政弘は高井直治、玉太郎は井門樓の餅妓臨時に之を勤むと答

（一）本郷教會堂（二）塚口憲三宅下宿（三）箕輪環假寓（四）野崎歌子宅（五）箱根環翠館（六）同客室（七）房州根元海岸（八）同甲岩（九）漁師作兵衛宅（十）箕輪博士宅

塚口憲三（伊東文夫）箕輪傳三（小泉三猿）吉田嶋子（吉野小二郎）箕輪環（藤島紫水）子爵櫻戸隆弘（小泉英二郎）吉田左門、野崎歌子（北秋喜三郎）漁師作兵衛（福井）

◀平民文庫▶

▲新聞社の人と云ふことを此の頃は新聞屋の人と云ふ既に新聞社を新聞屋と云ふ以上は記者と云ふのも新聞の種書きと云ふ方が早判りがすると思ひます探訪を材料取りと云ふからには記者は種書き若は艶付書役と云つても不服はあるまい（鈍感漢）▲巡査や警部のことを目明し或は同心看守の獄卒と云つても差し閊へはないと思ふ（小僧）●以上記者の云々も差し閊へ無い▲明治町近邊に二百三高地と云ふか四百六高地と云ふか大庇髮が居るが何れ淫賣婦だらう（通行人）▲我々商人の爲めに尾崎滋滋と大坂商船社の船が仁川へ入港する期日を毎日出して下さい欄外でも宜しいから一定の場所にねれ願ひ致します（一商人）▲一つ相談致します（係）▲京城に圖書館があると聞きましたが何所に御座いますか又性質に於ては京都なぞに在るのが疑りませぬかれ尋ね申上候（比の字）▲れ谷へ致しまず場所は壽町一丁目の商業會議所の内と承知致して居ります其の性質等に關しては當事者の御答へをれ持ち下さいまし（係）▲僕の叔父の家に鏡が二面ある見る所別に疑りないが反射せしむると一つは南無阿彌陀佛一つは佛さんの像が現はれる（春部）▲幾度も云ふ樣だが天ぷらは桧金に限る而して其の出前を持ち出すとの早いのには驚かざるを得ぬ（西小門人）▲早朝日韓當房の前を通つて見るに八時ならざるに五八七八立つて居る閑な人か夫れとも讀書家だらうかは疑問だね（石井洞人）▲待合春日の主人公十一日の朝早く本町三丁目邊から人力車を飛ばして自宅に歸つたが前晚はた樂しみかれ苦しみか知り度いものだナア（見太廳）▲さわやとか云ふ西小門通りの新米淫賣屋は夜拔けをしたと云噂があつた（への字）